

2021年5月16日（日）主日朝礼拝説教

『キリストの昇天』 井上隆晶牧師
使徒言行録1章3～11節、マルコ福音書16章19～20節

①【神の右の座に着かれた】

キリストが復活して40日目に、主は天にお帰りになりました。それを昇天といいます。そこで今日は、主の昇天についてお話ししましょう。使徒言行録に「イエスは弟子たちが見ているうちに、天に上げられたが、雲に覆われて彼らの目から見えなくなった。」（使徒1:10）とあります。主が弟子たちに昇天される姿を見せられたのには意味があると思います。もし目の前にいる人が天に上がるのを見たら、この人はこの世の者ではないと思いませんか？昇天することによって、主は弟子たちに御自分が神であることと、天から聖霊を送る約束が嘘ではないことを教えられたのです。

マルコ福音書には「主イエスは、弟子たちに話した後、天に上げられ、神の右の座に着かれた。」（マルコ16:19）とあります。使徒信条でも「天にのぼり、全能の父なる神の右に座したまえり」と告白されています。誰も神様の右の座にイエス様が着かれたのを見た者はいませんから、これは教会の信仰告白です。西洋では右側が上位であり、東洋では左側が上位とされています。イエス様が神の右の座に坐したというのは、神の右手がイエス様自身であって、裁きの全権を委ねられたからです。つまりイエス様は父なる神様と同質、同座なる神であるという信仰告白なのです。これはユダヤ教でも、イスラム教でも決してありえないことです。彼らのメシアは人であって神ではないからです。私たちの礼拝堂には、キリストが神として父なる神の右に座しておられる絵があります。私たちはこの絵を仰ぎながら、天上におられるキリストに祈るのです。

②【キリストは見えないけれど共におられる】

さて、イエス様は人の目には見えなくなっただけで、共にいないのではありません。イエス様自身が「私は世の終わりまでいつもあなたがたと共にいる」（マタイ28:20）といているからです。4世紀のアウグスティヌスはこう言っています。

●「主は私たちの所に降って来られた時、天を去ったわけではなく、再び天に昇られた時も、私たちから身を引かれたのではありません。」

共におられるのですが、その有り様が変わったのです。今までは「肉体の姿」で共におられたのですが、これからは「教会という姿」で共にいて下さるのです。週報の表紙のアイコンがそれを教えています。昇天したキリストと、直立不動の姿をもって祈りのポーズを取るマリアは一直線で描かれています。マリアは教会のひな形として描かれています。イエス様が神でありながら、地上では肉体を取って働かれたように、教会という姿で今は働かれるのです。教会に来るとキリストに

触れるためのあらゆるものがあります。聖書、聖餐、讃美歌、イコン、十字架、祭壇、ともし火、香、祈り、祭服。礼拝堂で賛美し、聖書を読み、祈禱を唱えるとキリストが現れます。教会にはキリストの霊が満ちています。キリストだけが天と地を一体にされた方です。同じように教会は天と地が一体になる場、天への梯子、地上に現れた天国の門、キリストの体です。

③【キリストの昇天は、あなたの昇天であること】

父と子と聖霊の三位一体は決して分離しません。ですからキリストが天から降り肉体を取って地上を歩かれた時も、神性においては天におられました。だから主が昇天されたといっても、もともと神性は父なる神と共におられたのですから、正確に言うなら、主はこの日、受け取られた人間性を天に上げられ、父なる神の右に座らせたということなのです。昔の祈禱文にもこう書かれています。

●「神よ、あなたは最も深い地獄に降ったアダムの人間性を、ご自分の中で新しく作り変えられ、今日すべての天使たちの上に昇らせました。人を愛するあまりご自分と共に宝座に座らせました。」

だからキリストの昇天はあなたの昇天なのです。洗礼を受けてあなたはキリストの体となりました。頭であるキリストが天に上がる時、その肢体であるあなたも共に上げられたのです。彼はもともとおられた所に昇るのですが、私たちは恵みによって引き上げられるのです。昇天はキリストの救いの最後の業を教えています。よく「十字架によって救われた」という人がいますが、それは救いの一部に過ぎません。キリストの受肉、十字架、復活、昇天というすべての過程によって人間は救われたのです。キリストの受肉が救いの始まりであり、十字架によって罪を取り除き、復活によって死を取り除き、昇天によって人間性を天に引き上げ、完全に人間の救いが完成したのです。この一体の神秘によって人の救いは行われます。

これは予言されていたことの成就でした。すなわち、主自らが「私は地上から上げられるとき、すべての人を自分のもとへ引き寄せよう。」(ヨハネ 12:32)といわれ、旧約でも「あなたは高い天に上り、人々をとりこし、…彼らはそこに住み着かせられる。」(詩篇 68:18)と書かれています。私たちは自分の力では、天国に昇れません。しかし降ってこられた方、すなわちキリストによって一つに集められ、しっかりと彼に手をつながれ、抱かれて、キリストによって神の国に連れてゆかれるのです。

④【キリストと一体である自覚がいよいよ強くなるように】

天使は、弟子たちにいいました。「ガリラヤの人たち、なぜ、天を見上げて立っているのか。あなたがたから離れて天に上げられたイエスは、天に行かれるのをあなたがたが見たのと同じ有様で、またおいでになる。」(11 節) イエス様はもう一度来られるというのです。「私はあなたがたをみなしごにはしておかない。あなた

がたのところに戻って来る。」(ヨハネ 14:18) と言われました。これは聖霊降臨と、再臨を意味しています。この二つの来臨で主は再び私たちの所に戻ってこられます。聖霊降臨はこの 10 日後に、再臨は世の終わりに行われます。天使は、弟子たちにこういっているのです。「イエス様が自分たちから遠くに去ってしまったと悲しんではならない。必ずイエス様は戻ってきて、今度はあなたたちの中に住み、あなたたちと一体になって、前よりも一層近く、共にいてくださる、だから喜び、元気を出しなさい。」といっているのです。

●先週、ペットのわんちゃんが天国に旅立ったことを話しました。亡くなる前の数か月は介護と看護の日々でした。14 キロあった体重は 8 キロくらいに落ち、骨と皮だけになり、両目も見えず、脳に腫瘍ができたせいもあって徘徊が激しく、平衡感覚を失って体が曲がっていました。注射器で食べ物や水を口に入れて流し込み、毎日おむつを替え、緊張の連続でした。この子の為に費やした医療費は多く、新しいわんちゃんが後三匹くらい買えるほどでした。骨と皮だけになっても、私たちにってはかけがいのない家族、世界で一匹だけの家族だったのです。だから最後まで世話をし、一緒に生きました。愛とはそういうものです。病気があるろうと、障害があるろうと、どんなに姿が変わろうと、愛は変わらないのです。イエス様の愛が変わると思いますか？イエス様は私たちがまだ罪人であった時にさえ命を捨てて下さいました。あなたがどんなに変わってしまっても、彼のあなたへの愛は変わらないのです。

キリストがあなたの中にお住まいになられて何年になりますか？来世では永遠にあなたの中にお住まいになります。この世ではその練習をされたのです。長く住めば住むほど、共に過ごした者への愛着は湧くものです。わんちゃんとの 15 年の生活でさえも、私たちの生活の一部になり、中心にさえなりました。共に寝起きし、共に食事をし、共に過ごした日々は忘れられません。あの子はすでに私たちの生活の一部だったのです。だからこそぽっかり穴が開いたのです。私たちがさえそうなので、キリストと聖霊にとってあなたとの信仰生活は、すでに彼らの生活の一部になり、あなた無しでは考えられないほどのものになっているのです。「神は私たちの中に住ませた霊を、ねたむほどに深く愛しておられ、もっと豊かな恵みをくださる。」(ヤコブ 4:5~6) と書かれています。キリストと聖霊はあなたの中に住まい、あなたとの約束を誠実に守られ、あなたから去ろうとはされません。キリストの霊があなたの中にいるので私たちは信仰できますし、教会に戻ってこれるのです。パウロは「もしイエスを死者の中から復活させた方の霊が、あなたがたの内に宿っているなら、…その霊によって、あなたがたの死ぬはずの体を生かしてくださいましょう。」(ローマ 8:11) といいました。このキリストの霊があなたの中にいるので私たちは復活できるのです。復活は人間が自然にもっている力ではありません。この方が、あなたの中にいるかどうかだけです。

●今から 120 年ほど前にイタリアの女医だったマリア・モンテッソーリが考案した「モンテッソーリ教育法」というのがあります。この教育法では、三歳くらいの幼い子供に、保育を通して「責任感」を育てようとしています。子どもたちは朝登園すると、保育室に行き、そこにある遊具の中から、自分が使うものを自由に選びます。いったん自分が選んだ遊具は、大切に扱うこと、その目的に沿って使うこと、最後までやり遂げること、以前置かれていた場所に、きちんと戻すことが求められます。子どもたちは、自由とは、勝手気ままにすることではなくて、自由には、選んだものへの責任がついてまわることには気づかせるのです。

『星の王子さま』という小説の中に出てくるキツネは「めんどうを見た相手には、いつまでも責任があるんだ。人間っているのは、この大切なことを忘れてるんだよ」といっています。

イエス様は、「**あなたがたが私を選んだのではない。私があなたがたを選んだ。**」(ヨハネ 15 : 16) と言われました。イエス様はご自分が選ばれた弟子たちをみなしごにせず、再び戻ってきて中に住まわれ、共に地上を歩き、最後まで背負い、天に連れていかれました。その責任を全うしてくださいました。この私にも同じようにして下さるでしょう。老いて白髪になっても、病んで、何もできなくなっても、この身体を選ばれた以上、最後まで共に歩み、天に引き上げて下さるでしょう。